

2025（令和7）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473500708	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム湘南かさま		
所在地	( 247-0006 ) 神奈川県横浜市栄区笠間3-20-27		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年10月16日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ケアネット徳洲会の理念  
○生命を安心して預けられる施設  
○健康と生活を守る施設  
念頭に置き、24時間体制医療、訪問看護で入居者様を安心して過ごせる施設運営を行っています。また「その人らしい生活」を実現に、入居者様本位の最良のケアを提供したい為、「入居者様の思い」「ご家族様の思い」に寄り添い、安心して安全できる環境作りを心掛けています。当施設では「御看取り」最後期を迎えても御家族と過ごせる環境、顔見知りの職員、御利用者様にて見送りまで行っています。開設以来地域との交流があり、夏祭りなどに参加を行い住み慣れ場所にて過ごし職員と一緒に楽しんでいます。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月20日	評価機関 評価決定日	令和8年2月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR東海道線および横須賀線の「大船」駅からバスで4分程の「笠間町」バス停で下車し、徒歩6分程の場所に立地しています。近隣には笠間公園があり、自然に触れやすい環境です。玄関の扉にはAED（自動体外式除細動器）の設置を明示しており、地域住民へも緊急時の備えを発信しています。

<優れている点>

医療法人が設立した事業所として、24時間安心して医療を受けることができる体制の維持に努めています。法人の理念をもとに、入居者の目線に合わせた良質のサービス提供という事業所理念を掲げ、安全で安心できる環境づくりに取り組んでいます。入居時の聞き取り情報を大切にしながら、日々の傾聴を通じて入居者の思いを把握できるよう努めています。また、入居者や家族の心情に寄り添う支援を実践しています。愛犬との再会を望む入居者のために、家族が連れてくる愛犬と玄関先で対面できる機会を設けています。入居により独居となった家族が本人と過ごす時間を大切にできるよう、昼食を共に摂り半日ほど滞在できる環境を整えるなど、家族も含めた支援の継続を目指しています。重度化した場合の医療体制に関する指針を作成し、家族の意向を確認しながら、最期まで家族と過ごす環境のもとで看取り介護の支援にあたっています。

<工夫点>

食事の時間を楽しむことができるよう、月2回のリクエスト食を提供しています。おいしいものを美味しく提供することを職員間で共有し、職員による検食を欠かさず行っています。陶器の色彩豊かな食器を使用することで、視覚からも食事を楽しむような工夫を凝らしています。こうした取り組みを通じて、入居者が日々の食事に満足感を得る環境を整えています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム湘南かさま
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域と事業所との関係性を重視した理念を大切にしている。理念が日々のケアに活かされているか確認しあっている。	法人の理念に基づき、入居者本意の入居者の目線に合わせた良質のサービスを提供しますという事業所理念を作成しています。施設長は、どのような支援が入居者本意の関わりにつなげるのか、職員に対して日々の業務の中で具体的な意識づけを行っています。すべての入居者が毎日を安心して自分らしく暮らすことができるよう、組織全体で理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の初詣・盆踊り大会に家族の協力を得ながら、殆どの入居者の方達をお連れする事が出来、地域住民として楽しまれ、ご家族もとても喜ばれていた。今後もこのような取り組みを増やしていきたい。	田立町内会に加入し、地域とのつながりを維持しています。敬老の日には祝いの品を受け取ったり、地域の行事に関する情報を共有したりしています。家族も参加した町内会主催の盆踊り大会への参加や、ボランティアによるコンサートも好評です。コンサートで楽しそうに歌を口ずさむなど、地域の人と触れ合う機会は入居者の笑顔につながっています。現在は、以前に交流のあった障害者施設との関係再開を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域のボランティアさんをお招きし、コンサートを実施。久しぶりにボランティアさんと一緒に声高らかに、歌を楽しむことができた。笑顔の絶えない1日だった。継続的にコンサートを実施する予定である。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回地域の方々と意見交換や助言を頂くため、感染症対策を徹底しながら、会議を継続している。地域の実情の把握に努め、地域で生きていく上での入居者の暮らしやすさを目指している。	運営推進会議は、町内会相談役、民生委員、地域包括支援センター職員、栄区社会福祉協議会会長、事業所の職員の参加を得て偶数月に開催しています。家族に対しても声をかけ、参加を促すよう努めています。会議ではヒヤリハットや感染予防の取り組みについて報告しており、事業所の見学や相談の受け入れ体制について意見を交わしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	横浜市独自のグループホーム助成該当者の有無を尋ねたり、認定更新の機会に、区の担当者へ利用者の暮らしぶりや、ニーズを具体的に伝え連携している。運営推進会議にも参加頂き、ホームの実情を見て頂いている	高齢・障害支援課の職員とは、家賃など入居者負担の一部助成に関する確認を行う際に、事業所の実情を共有し協力関係を築いています。福祉保健センター生活支援課の担当者とは、生活保護を受給している入居者の生活状況や心身の状態について電話などで適宜情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に準ずるセンサーの設置にも毎月の全体会議で、解除できないかどうかの有無を話し合い、職員一人一人が、言葉の暴力を行っていないかどうか、振り返りの時間を設け、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、定期的な委員会や研修を通じて職員の意識向上を図っています。施設長は、職員の声かけにおいて言葉尻が上がっていないかなど、入居者の自尊心を傷つけない関わりができているかを確認しています。転倒予防のためのセンサー設置についてはその必要性を慎重に検討し、入居者が帰宅願望を生じやすい時間帯には味見に誘うなど、一人ひとりの心身の状態に合わせた柔軟な対応策を職員間で共有しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を立ち上げ、議事録などで共有し、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設け、虐待がないよう理解を深め、遵守に向けた取り組みを行っている。	虐待防止に関する指針を作成し、定期的な委員会や研修を通じて職員の理解を深めています。施設長は、自己点検シートの回答傾向などを分析し、職員が疲労やストレスによって不適切なケアを行うことがないように細やかに注意を払っています。法人全体で虐待防止の徹底に取り組んでおり、見守りカメラの導入に向けて現在は機種を選定を進めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の機会を設け、職員への理解を深める取り組みを行っている。家族には必要に応じて、成年後見制度について情報提供を行っている。成年後見制度利用の該当者を、区の担当者に伝え、情報共有も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用料金や起こりうるリスク、重度化への予測、看取りについての対応等、医療連携体制について、時間を十分に取って、詳しく丁寧に説明を行い、家族の理解を得て同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には毎月のお便りをお送りし、個々に訪問される御家族には、意見や要望を伺い、管理者・職員で話し合い、日々の業務の運営に役立て、入居者の要望にも耳を傾ける姿勢を忘れない様努めている。	請求書を送付する際に「ホームでの様子」や「運営推進会議議事録」を同封し、家族が事業所の日常や運営状況を把握できるよう努めています。12月にはクリスマス会の開催に合わせ、家族会を実施する計画を進めています。また、入居を機に独居となった家族が本人と過ごす時間を大切にできるよう、昼食を共に摂り半日ほど滞在できる環境を整えるなど、家族の心情に寄り添った柔軟な支援を実践しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が自由に意見を出せる様な雰囲気作りを大切にしている。全体会議・フロアー会議・朝礼・カンファレンス等職員に意見や提案を尋ねる機会を設け、運営に活かせる様努めている。	職員の主体性を尊重し、月1回の全体会議で意見を聞き取る場を設けています。会議欠席者には会議録の確認を促し、情報の共有漏れがないよう努めています。献立の変更や見守りカメラの導入、業務改善委員会の提案などを実際の運営に反映させています。また、ハラスメントなどを相談できる法人の窓口を設置し、職員が安心して働き続けることができる体制の維持に取り組んでいます。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正職者はスキルアップ評価を実施。半年に1回評価について面談を行い、管理者と一緒に、振り返りを行っている。非常勤にも自己評価をしてもらい、管理者のアドバイスを受けながら、自己研鑽を行ってもらっている。	年2回の面談で心身の状態を把握し、シフト調整や有給休暇の取得促進に繋げています。管理者と職員が意思疎通を図りやすい風通しの良い職場環境があり、5年から10年以上勤務する職員が多数在籍しています。調理専門職員の配置や休憩場所の整備により、職員がリフレッシュして業務に当たる環境の維持に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人として、実践者研修や介護福祉士の資格取得を金銭面でもサポートし、取得出来る環境を整えている。メンタル面でも不安がないか、また体調不良を起こしていないか管理者はきめ細やかな職員への把握に努め、意欲的に業務に取り組める、雰囲気作りを大切にしている。	年間研修計画に基づき、各々の端末で視聴できるオンライン研修システムを活用して理解を深めるよう努めています。居室担当や委員会活動への参画を通じて、職員のやりがいやスキルアップを後押ししています。介護福祉士実務者研修などの資格取得には費用の補助を行い、専門性の向上を支援しています。新規採用者に対しては、OJT（職場内実地研修）を通じて業務を習得をサポートする体制を整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内で施設長会議、中途採用者研修を実施している。法人内のグループホームの職員間で、活発な意見交換を行っている。他の施設の良い点を参考にしながら、生活の質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず笑顔で接し、観察的アセスメントを実施。多岐に渡る情報収集を行い、本人の思いや要望を受け止めながら、本人に響く効果的なコミュニケーションを、模索しながら、安心して頂ける様、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの苦労を労い、今までの経緯をじっくり伺いながら、共感し最初の関りを大切にしている。家族と早い段階で信頼関係を築ける様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族・入居者とのきめ細やかなアセスメントを通して、希望する他のサービスにも対応している。また他のサービスに繋げるためのネットワーク作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側される側という意識を持たず、暮らしの中で、共に支え合う関係作りに努めている。また安心して穏やかに、一日を過ごして頂ける様な支援を、常に心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族が築き上げた絆を共感しながら、家族と共に本人を温かい心で受け止めながら、共に支える姿勢で、肩の力を抜いた、自然な関係性を目指している。個々のケアプランにも反映させている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	はがきでやり取りする、遠方の家族との関係を継続して頂き、甥御さんや頻りに訪れる御主人等、気兼ねなく、家族もホームが自宅であるかのような、アットホームな場作りに努めている。	入居者のこれまでの生活背景を尊重し、大切な人とのつながりが途切れないよう支援しています。家族と美容院や葬儀に向いたり、居室で一緒にピアノ演奏を楽しんだりする姿が見られます。また、近隣に住む知人や囲碁仲間、教え子が訪ねてきた際には湯茶でもてなすなど、住み慣れた地域での人間関係を継続できるよう心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が、ひよっとしたきっかけでトラブルにならない様見守りながら、入居者同士の関係が上手くいく様心掛けている。入居者と職員が笑顔の絶えない一日を過ごせる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた入居者の家族に対し、孤独にならない様、地域包括の職員に定期的に訪問を依頼したり、支援が必要であれば相談に乗って頂ける様お願いしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けや入居者との会話からコミュニケーションを取り、入居者の言葉や表情から確認する様にしている。職員全員が入居者の一人一人の思いや要望に耳を傾け、受け止める事を心掛けて、その思いを申し送り等で、共有している。	入居時の聞き取り情報を活用し、丁寧な傾聴を心がけてコミュニケーションを図っています。日々の生活の中で汲み取った入居者の思いや意向は、業務日誌や申し送り、会議などを通じて職員間で共有しています。「愛犬に会いたい」という本人の意向を尊重し、家族の協力を得て、愛犬と共に来訪して対面できるよう支援しています。こうした一人ひとりの願いを把握し、実現につなげるための体制づくりに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族が来訪された際、積極的に話を伺う様にしている、プライバシーに配慮し、過去の情報収集を家族に協力頂き、情報を出来るだけ集め、個別のアセスメントを作成し、個人の生活に活かす支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今出来る事に着目し、有する力を出来る限り発揮出来る様支援している。職員間で一日の様子を細かく確認し、新しい気づきを得ながら、その日の心身の状態を、総合的に把握できる様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	チームで一人一人の入居者の介護計画を作成している。カンファレンスでは、計画作成担当者が、職員の意見を吸い上げ、介護計画に反映させながら、本人がより良く暮らす為の課題とケアのあり方について、話し合っている。	包括的自立支援プログラムによるケアチェック表を用いて日々の生活を評価し、入居者の状態把握に努めています。家族の意向や医師、看護師との協議、モニタリング、カンファレンスを経て、一人ひとりに最良のケアを提供できるよう、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一枚の排泄チェック表の中に、身体の状態が解る様な記入方法で、職員間で共有し、訪問看護に情報を伝えている。また入居者の心の変化等個別記録に記入し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援に取り組む方法として、訪問歯科・訪問マッサージを取り入れている。また要望に応じて訪問理容を実施している。家族に会えない寂しさを、電話で取り次ぎながら、心の落ち着きを取り戻して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の自治会の役員・地区社協役員・民生委員と地域の要の役割を担う方々と交流を深めながら、安心と安全そして心身とも豊かに生活できる様、地域の方々と協働している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回主治医が往診に来て下さり、希望者は訪問歯科を利用している。訪問看護は、24時間オンコールで、必要時繋げてくれている。眼科や循環器・整形外科受診等は、家族の希望する病院に、家族が付き添って通院して頂いている。	健康な生活を守るため、協力医療機関や訪問看護と連携し、24時間オンコール体制で医療支援を整えています。訪問診療や訪問歯科を実施し、診療時には施設長が立ち会い、医師、看護師、薬剤師と確実に情報を共有しています。他科受診は家族の付き添いを基本としつつ、必要に応じて事業所が代行するなど柔軟に対応しています。毎月の多職種会議を通じて入居者の健康状態を把握し、迅速で適切な対応に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と連携を取って、日々の少しの変化も伝え、改善の方向への助言を貰っている。体調の状態変化を把握し、急変時や早期発見に訪問看護と共有し、速やかな対応が出来る様、心掛けている。主治医から必要あれば、医療処置も行って貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者が早期に退院できる様、入院先と情報共有を強化している。主治医・訪問看護との情報共有も強化しながら、スムーズにホームでの生活に戻れる様支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を入居時に家族に丁寧に説明し、職員は個別の看取り期を前に研修を行い、看取り後の振り返りを必ず実施し、職員一人一人の死生観教育を向上させる実践を行っている。また家族には定期的に看取りの確認書を再提出して頂いている。	看取りおよび重度化に関する指針の説明を行い同意を得ています。医師の判断後は、家族と随時意向を確認しながら方針を決定しています。最良のケアを実践するため、個別の看取り期前に研修を行い、看取り後には振り返りを通じて職員のダメージケアを図っています。また、看取り期に家族が宿泊できるよう支援するなど、最期まで家族と共に過ごす環境の維持に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜勤時の緊急時対応等、いざという時に慌てない様、危機管理マニュアルに基づき、全体会議やカンファレンスで再確認し合い、全員が実践力を身に付けられる様、管理者が指導している。ADE講習会も年1回、救急隊員の指導の下、行える様心掛けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。また消防署長からは、適切なアドバイスを頂いている。防災マニュアルも適宜更新している。水害時の避難訓練も適宜出来る様、心掛けている。	災害および感染症のBCP（業務継続計画）を作成し、年2回のシミュレーション訓練を実施しています。避難訓練も年2回行い、そのうち1回は消防署の立ち会いのもと、AED訓練などの指導を受けています。水害発生時に備えて垂直避難を訓練に取り入れているほか、災害備蓄品リストに基づき、数量や賞味期限の適切な管理に努めています。こうした継続的な訓練と備えを通じて、緊急時に入居者の安全を確保し、業務を継続できる体制の維持に取り組んでいます。	施設の避難訓練に地域の方々に参加いただき協力体制を築けることを期待します。毎年1回は職員の少ない夜間を想定した訓練の実施が望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の思いを大切に考え、自然なさりげないケアを心掛けている。自己決定しやすい声掛けに努めながら、プライバシー保護や守秘義務の周知徹底を行っている。	施設長は日々の支援において、人格を尊重した言葉遣いやプライバシーへの配慮、大きな声を控えることを重視しています。支援の中で課題を発見した際は、申し送り時に速やかに共有し、改善を図るよう努めています。排泄や入浴時にはドアを閉めて見守りを行うなど、露出への配慮に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めた事を押し付けるのではなく、色々な案を考え、ご自身で決めて頂ける様支援している。また意思表示できない方には、表情や顔色を伺いながら、思いを察し、自己を表出出来る様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の目線に合わせ、入居者の様子を常に観察しながら、一人一人のペースに合わせた暮らしの支援に努め、個々の希望に沿った暮らしを、柔軟に対応出来る様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人の拘りのスタイルを大切にし、その人らしい身だしなみや、自分好みのおしゃれが出来る様支援している。意思疎通困難な方には、整容の乱れや食べこぼし等清潔保持出来る様な支援を行い、毎日気持ちよく過ごして頂ける様支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人がおいしく召し上がれる様、笑顔で声掛けし、飲み込みの悪い方には、ミキサー食を提供し、必ずおいしく食べて頂ける様、味を確かめながら提供している。定期的に新しい食器を購入し、気分を変えて食を楽しんで頂いている。	美味しく楽しい食事を提供するため、ご飯や汁物、お粥は味見をしながら手作りしています。視覚的にも楽しめるよう、色鮮やかな小鉢を多く用いて盛り付けを工夫しています。入居者2名がホワイトボードに献立を記載する役割を担い、食事への関心を高める取り組みを行っています。職員による検食を欠かさず実施するとともに、月に2回のリクエスト食を取り入れるなど、入居者の好みを反映した食生活となるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の一日の栄養摂取量や水分の確保に気を配り、介助するスピードやタイミングを計りながら介助している。出来るだけ自分で召し上がって頂ける様声を掛け、個人の食習慣も大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立度に合わせ、毎食後自発的に口腔ケアが行える様支援している。また希望する方は、定期的に訪問歯科を利用されている。口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持の為のアドバイスを医師や衛生士より頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立ち上がり困難な方でも、トイレで気持ちよく排泄出来る様、二人介助で介助している。プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用し、一人一人の能力に合わせた残存を活かした排泄支援を実施している。	トイレの便座に座って排泄することを重視し、自立に向けた支援に努めています。身体状況に合わせて2名で介助を行うなど安全を確保しつつ、排泄チェック表やその日の体調に基づき、一人ひとりに合わせたさりげない誘導を行っています。排泄時にはドアの外で見守るなど、羞恥心への配慮を徹底しています。夜間は床センサーを活用して速やかに訪室し、手引き誘導でトイレへ案内するなど、入居者の生活リズムを尊重した支援の継続に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便が出来る様、水分量の確保や乳製品等を提供し、レクリエーションに短時間でも運動を取り入れて、便秘の原因を見極め、なるべく薬に頼らない支援を心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の生活習慣を大切に、自己決定出来、入浴を楽しんで頂ける様支援している。浴室や湯の温度に注意を払っている。湯はその都度交換し、入浴剤や季節感を味わって頂ける様、ゆず湯等を提供している。	心地よく入浴できるよう、週2回、1回につき30分から40分かけてゆっくりと過ごす時間を設けています。希望に応じて週3回入浴する入居者もいるなど、個別の意向を尊重しています。衛生面に配慮してお湯はその都度交換し、好みに合わせて入浴剤を用意することで、リラックスできる環境づくりに努めています。また、脱衣室と浴室内の温度管理を徹底し、ヒートショックを予防する安全な入浴環境の維持を図っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を促しながら、夕方からの過ごし方が落ち着いたものになる様、安心して眠れる環境整備をチームで取り組んでいる。体力に合わせ、日中の臥床の支援も行っている。それでも不眠が続く入居者に対しては、主治医にその都度相談して対処して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人一人に使用されている薬の目的や副作用・用法用量について理解し支援している。カンファレンスでは、職員が個々人の服薬に対する理解と知識を深め、変更時確認を全員が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の楽しみや役割を見つけて、喜びを共に実感している。レクリエーションでは、ビデオ体操だけでなく、座って行う風船バレー等、数を数えながら行い、日々の生活にリズムを付ける支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外に出たいと希望される方には、個別にスタッフが寄り添って、玄関前のベンチに座り、本人の思いを受容する時間を設けている。要望に合わせ、家族の協力を得て、近所のファミレスで、デザート等を食べて、至福のひとつを過ごして頂いている。	希望に合わせて建物周辺を15分ほど散歩したり、近隣の障害者施設の中庭を訪れたりして、外の空気に触れる機会を設けています。事業所の買い物に同行する入居者もあり、日常の中での社会参加を促しています。地域の盆踊りや祭りの際は、職員の体制や家族との連携、安全確保など事前準備を整えて参加し、地域とのつながりの維持に努めています。家族と共に江の島や中華街へ出向く入居者もいるなど、個別の意向に沿った多様な外出の機会を大切にしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	化粧品や乳液等、今まで愛用した物を、継続的に使用して頂いている。また好きな色や絵柄のクッション等の要望を受け、家族が対応出来ない時は、職員が購入しお渡ししている。隣の入居者に笑顔で、見せたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人に電話したいと言われた時は、プライバシーに配慮し、居室で掛けて頂いている。家族に電話したいとの訴えあれば、何度でも電話し、家族と協力しながら、話して頂き、不安を取り除いて頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングルームのソファで、テレビを見ながら、利用者同士で、会話が弾むように、職員も一緒になって会話に参加している。手引きの方もいらっしやり、動線に注意を払っている。季節を感じるタペストリー等を飾り、四季を味わって頂いている。	リビングは明るく清潔に保ち、大きなソファを配置して入居者がくつろげるよう工夫しています。10時のコーヒータイトムや15時のおやつ、体操や風船バレーなどの機会を設け、自然と人が集まり交流できる場を提供しています。ボランティアによる歌謡ショーでは、入居者が手拍子を送り五感で楽しむ姿が見られるなど、外部との交流を通じた刺激のある生活環境づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性の良い人との席の配慮を行い、個人のペースに合わせ、心地良い場所で過ごして頂ける様努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂き、寛いで頂く誘導等を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	小さい頃からピアノに慣れ親しんだ方には、使用していたピアノを持参して頂き、弾きたい時には、家族と一緒に弾いて頂いている。工作が好きな方は自分のはさみで、切ったりセロテープを使ったりして、作品を完成させている。	居室には使い慣れたタンスや小物類のほか、電子ピアノや好みの衣服を持ち込むなど、入居前の生活習慣が継続できるよう配慮しています。各室は日当たりが良く、清掃と整理整頓することで、清潔で心地よい個人空間の維持に努めています。一人ひとりの居室での過ごし方を把握し、プライバシーを尊重しながら必要な支援を行うことで、心身ともに安らげる環境づくりを図っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の出来る事、出来ない事を見極め、移動時等、手すりの使用や手引き歩行、後方からの見守りや車いすの自走の見守り等、その方に合わせた安全な移動方法を見極め、自立した生活が送れる様支援している。		

事業所名	グループホーム湘南かさま
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域と事業所との関係性を重視した理念を大切にしている。理念が日々のケアに活かされているか確認しあっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の初詣・盆踊り大会に家族の協力を得ながら、殆どの入居者の方達をお連れする事が出来、地域住民として楽しまれ、ご家族もとても喜ばれていた。今後もこのような取り組みを増やしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域のボランティアさんをお招きし、コンサートを実施。久しぶりにボランティアさんと一緒に声高らかに、歌を楽しむことができた。笑顔の絶えない1日だった。継続的にコンサートを実施する予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回地域の方々と意見交換や助言を頂くため、感染症対策を徹底しながら、会議を継続している。地域の実情の把握に努め、地域で生きていく上での入居者の暮らしやすさを目指している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	横浜市独自のグループホーム助成該当者の有無を尋ねたり、認定更新の機会に、区の担当者へ利用者の暮らしぶりや、ニーズを具体的に伝え連携している。運営推進会議にも参加頂き、ホームの実情を見て頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に準ずるセンサーの設置にも毎月の全体会議で、解除できないかどうかの有無を話し合い、職員一人一人が、言葉の暴力を行っていないかどうか、振り返りの時間を設け、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を立ち上げ、議事録などで共有し、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設け、虐待がないよう理解を深め、遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の機会を設け、職員への理解を深める取り組みを行っている。家族には必要に応じて、成年後見制度について情報提供を行っている。成年後見制度利用の該当者を、区の担当者に伝え、情報共有も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用料金や起こりうるリスク、重度化への予測、看取りについての対応等、医療連携体制について、時間を十分に取って、詳しく丁寧に説明を行い、家族の理解を得て同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には毎月のお便りをお送りし、個々に訪問される御家族には、意見や要望を伺い、管理者・職員で話し合い、日々の業務の運営に役立て、入居者の要望にも耳を傾ける姿勢を忘れない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が自由に意見を出せる様な雰囲気作りを大切にしている。全体会議・フロア会議・朝礼・カンファレンス等職員に意見や提案を尋ねる機会を設け、運営に活かせる様努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正職者はスキルアップ評価を実施。半年に1回評価について面談を行い、管理者と一緒に、振り返りを行っている。非常勤にも自己評価をしてもらい、管理者のアドバイスを受けながら、自己研鑽を行ってもらっている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人として、実践者研修や介護福祉士の資格取得を金銭面でもサポートし、取得出来る環境を整えている。メンタル面でも不安がないか、また体調不良を起こしていないか管理者はきめ細やかな職員への把握に努め、意欲的に業務に取り組める、雰囲気作りを大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内で施設長会議、中途採用者研修を実施している。法人内のグループホームの職員間で、活発な意見交換を行っている。他の施設の良い点を参考にしながら、生活の質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず笑顔で接し、観察的アセスメントを実施。多岐に渡る情報収集を行い、本人の思いや要望を受け止めながら、本人に響く効果的なコミュニケーションを、模索しながら、安心して頂ける様、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの苦労を労い、今までの経緯をじっくり伺いながら、共感し最初の関りを大切にしている。家族と早い段階で信頼関係を築ける様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族・入居者とのきめ細やかなアセスメントを通して、希望する他のサービスにも対応している。また他のサービスに繋げるためのネットワーク作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側される側という意識を持たず、暮らしの中で、共に支え合う関係作りに努めている。また安心して穏やかに、一日を過ごして頂ける様な支援を、常に心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族が築き上げた絆を共感しながら、家族と共に本人を温かい心で受け止めながら、共に支える姿勢で、肩の力を抜いた、自然な関係性を目指している。個々のケアプランにも反映させている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	はがきでやり取りする、遠方の家族との関係を継続して頂き、甥御さんや頻回に訪れる御主人等、気兼ねなく、家族もホームが自宅であるかの様な、アットホームな場作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が、ひよっとしたきっかけでトラブルにならない様見守りながら、入居者同士の関係が上手くいく様心掛けている。入居者と職員が笑顔の絶えない一日を過ごせる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた入居者の家族に対し、孤独にならない様、地域包括の職員に定期的に訪問を依頼したり、支援が必要であれば相談に乗って頂ける様お願いしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けや入居者との会話からコミュニケーションを取り、入居者の言葉や表情から確認する様にしている。職員全員が入居者の一人一人の思いや要望に耳を傾け、受け止める事を心掛けて、その思いを申し送り等で、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族が来訪された際、積極的に話を伺う様にしている、プライバシーに配慮し、過去の情報収集を家族に協力頂き、情報を出来るだけ集め、個別のアセスメントを作成し、個人の生活に活かす支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今出来る事に着目し、有する力を出来る限り発揮出来る様支援している。職員間で一日の様子を細かく確認し、新しい気づきを得ながら、その日の心身の状態を、総合的に把握できる様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	チームで一人一人の入居者の介護計画を作成している。カンファレンスでは、計画作成担当者が、職員の意見を吸い上げ、介護計画に反映させながら、本人がより良く暮らす為の課題とケアのあり方について、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一枚の排泄チェック表の中に、身体の様子が解る様な記入方法で、職員間で共有し、訪問看護に情報を伝えている。また入居者の心の変化等個別記録に記入し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援に取り組む方法として、訪問歯科・訪問マッサージを取り入れている。また要望に応じて訪問理容を実施している。家族に会えない寂しさを、電話で取り次ぎながら、心の落ち着きを取り戻して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の自治会の役員・地区社協役員・民生委員と地域の要の役割を担う方々と交流を深めながら、安心と安全そして心身とも豊かに生活できる様、地域の方々と協働している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回主治医が往診に来て下さり、希望者は訪問歯科を利用している。訪問看護は、24時間オンコールで、必要時繋げてくれている。眼科や循環器・整形外科受診等は、家族の希望する病院に、家族が付き添って通院して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と連携を取って、日々の少しの変化も伝え、改善の方向への助言を貰っている。体調の状態変化を把握し、急変時や早期発見に訪問看護と共有し、速やかな対応が出来る様、心掛けている。主治医から必要あれば、医療処置も行って貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者が早期に退院できる様、入院先と情報共有を強化している。主治医・訪問看護との情報共有も強化しながら、スムーズにホームでの生活に戻れる様支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を入居時に家族に丁寧に説明し、職員は個別の看取り期を前に研修を行い、看取り後の振り返りを必ず実施し、職員一人一人の死生観教育を向上させる実践を行っている。また家族には定期的に看取りの確認書を再提出して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜勤時の緊急時対応等、いざという時に慌てない様、危機管理マニュアルに基づき、全体会議やカンファレンスで再確認し合い、全員が実践力を身に付けられる様、管理者が指導している。ADE講習会も年1回、救急隊員の指導の下、行える様心掛けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。また消防署長からは、適切なアドバイスを頂いている。防災マニュアルも適宜更新している。水害時の避難訓練も適宜出来る様、心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の思いを大切に考え、自然なさりげないケアを心掛けている。自己決定しやすい声掛けに努めながら、プライバシー保護や守秘義務の周知徹底を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めた事を押し付けるのではなく、色々な案を考え、ご自身で決めて頂ける様支援している。また意思表示できない方には、表情や顔色を伺いながら、思いを察し、自己を表出出来る様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の目線に合わせ、入居者の様子を常に観察しながら、一人一人のペースに合わせた暮らしの支援に努め、個々の希望に沿った暮らしを、柔軟に対応出来る様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人の拘りのスタイルを大切にし、その人らしい身だしなみや、自分好みのおしゃれが出来る様支援している。意思疎通困難な方には、整容の乱れや食べこぼし等清潔保持出来る様な支援を行い、毎日気持ちよく過ごして頂ける様支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人がおいしく召し上がれる様、笑顔で声掛けし、飲み込みの悪い方には、ミキサー食を提供し、必ずおいしく食べて頂ける様、味を確かめながら提供している。定期的に新しい食器を購入し、気分を変えて食を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の一日の栄養摂取量や水分の確保に気を配り、介助するスピードやタイミングを計りながら介助している。出来るだけ自分で召し上がって頂ける様声を掛け、個人の食習慣も大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立度に合わせ、毎食後自発的に口腔ケアが行える様支援している。また希望する方は、定期的に訪問歯科を利用されている。口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持の為のアドバイスを医師や衛生士より頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立ち上がり困難な方でも、トイレで気持ちよく排泄出来る様、二人介助で介助している。プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用し、一人一人の能力に合わせた残存を活かした排泄支援を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便が出来る様、水分量の確保や乳製品等を提供し、レクレーションに短時間でも運動を取り入れて、便秘の原因を見極め、なるべく薬に頼らない支援を心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の生活習慣を大切に、自己決定出来、入浴を楽しんで頂ける様支援している。浴室や湯の温度に注意を払っている。湯はその都度交換し、入浴剤や季節感を味わって頂ける様、ゆず湯等を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を促しながら、夕方からの過ごし方が落ち着いたものになる様、安心して眠れる環境整備をチームで取り組んでいる。体力に合わせ、日中の臥床の支援も行っている。それでも不眠が続く入居者に対しては、主治医にその都度相談して対処して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人一人に使用されている薬の目的や副作用・用法用量について理解し支援している。カンファレンスでは、職員が個々人の服薬に対する理解と知識を深め、変更時確認を全員が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の楽しみや役割を見つけて、喜びを共に実感している。レクリエーションでは、ビデオ体操だけでなく、座って行う風船バレー等、数を数えながら行い、日々の生活にリズムを付ける支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外に出たいと希望される方には、個別にスタッフが寄り添って、玄関前のベンチに座り、本人の思いを受容する時間を設けている。要望に合わせ、家族の協力を得て、近所のファミレスで、デザート等を食べて、至福のひと時を過ごして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	化粧品や乳液等、今まで愛用した物を、継続的に使用して頂いている。また好きな色や絵柄のクッション等の要望を受け、家族が対応出来ない時は、職員が購入しお渡ししている。隣の入居者に笑顔で、見せたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人に電話したいと言われた時は、プライバシーに配慮し、居室で掛けて頂いている。家族に電話したいとの訴えあれば、何度でも電話し、家族と協力しながら、話して頂き、不安を取り除いて頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングルームのソファで、テレビを見ながら、利用者同士で、会話が弾むように、職員も一緒になって会話に参加している。手引きの方もいらっしやり、動線に注意を払っている。季節を感じるタペストリー等を飾り、四季を味わって頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性の良い人との席の配慮を行い、個人のペースに合わせ、心地良い場所で過ごして頂ける様努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂き、寛いで頂く誘導等を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	小さい頃からピアノに慣れ親しんだ方には、使用していたピアノを持参して頂き、弾きたい時には、家族と一緒に弾いて頂いている。工作が好きな方は自分のはさみで、切ったりセロテープを使ったりして、作品を完成させている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の出来る事、出来ない事を見極め、移動時等、手すりの使用や手引き歩行、後方からの見守りや車いすの自走の見守り等、その方に合わせた安全な移動方法を見極め、自立した生活が送れる様支援している。		

2025年度

事業所名

作成日： 令和8年 2月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35-16	施設の避難訓練に地域の方々に参加をいただき協力体制を築けることを期待します。毎年1回は職員の少ない夜間を想定した訓練の実施のが望まれます。	地域の方々（運勢推進会議の参加者）に向けてアナウンスして行く。また、夜間想定訓練は行って行く。	ご家族、運営推進会議参加者に向けてアナウンスを行う。 地震、火災、水害、夜間、各想定訓練を行っていく。6月、12月訓練予定	12ヶ月